

《担当者名》 歯学部教授 / 古市 保志  
 歯学部准教授 / 門 貴司  
 歯学部講師 / 森 真理 歯学部講師 / 加藤 幸紀  
 歯学部助教 / 清水 伸太郎 歯学部助教 / 松本 光生 歯学部助教 / 蒔 佳奈子

【概要】

歯の硬組織疾患に併発する歯髄や根尖歯周組織の病変である歯内療法概念とその診断・治療・予防法の基本的知識・技術を習得して、歯科衛生士としての臨床に役立つ項目を学ぶ。

【学修目標】

歯の硬組織疾患に併発する歯髄や根尖歯周組織の病変である歯内療法概念とその診断・治療・予防法の基本的知識・技術容について理解を深めることを目標とする。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	< 歯内療法概論 > < 歯髄形態と機能 >	歯内療法の基礎概念を理解し、歯内療法の原理を学ぶ。 根尖狭窄部に重点をおく。硬組織に囲まれた歯髄は、炎症時に腫脹できず、血液の循環障害が生じやすい特徴を学ぶ。 原因除去・感染防止・破壊された歯周組織の回復および再感染防止法の基礎を学ぶ。	森 真理
2 3	< 歯髄疾患と根尖性歯周疾患の臨床的分類 > < 歯髄疾患の診査・診断 >	病理と主な臨床症状について学ぶ。 歯髄疾患と根尖性歯周疾患の経過を学ぶ。 診査法と意義を理解する。 診査情報から疾患を診断する。 1)問診、2)視診、3)触診、4)打診、5)動揺度、6)生活テスト	森 真理
4	< 歯髄疾患の鑑別診断 > < 根尖性歯周疾患の診査と診断 >	診査情報から疾患を診断する。 全身との関わりを学ぶ。	加藤 幸紀
5	< 歯髄疾患の治療法 > 1)歯髄鎮痛消炎療法 2)覆髄法(間接覆髄法・直接覆髄法) 3)暫間的間接覆髄法(IPC法) < 歯髄疾患の治療法 > 1)歯髄切断法(生活歯髄切断法、失活歯髄切断法)	急性症状を伴う歯髄炎に対する歯髄鎮痛消炎療法の目的と治療法、治療用薬剤の特性を学ぶ。 覆髄法の種類と目的、使用される各種薬剤および歯髄組織の反応について理解する。 待機的保存療法である暫間的間接覆髄法(IPC法)の考え方と治療法を学ぶ。 歯髄の炎症が歯冠部歯髄に限局している症例に適用される歯髄切断法の目的と治療法を学ぶ。 局所麻酔下で実施される生活歯髄切断法と失活剤を応用した失活歯髄切断法の特徴、使用薬剤、術式、治療機転および予後成績を学ぶ。	清水 伸太郎
6	< 抜髄 > < 無菌的処置法 > < 根尖性歯周疾患の治療法 > < 感染根管治療 > < 根管長の測定 > 1)エックス線写真観察 2)電氣的根管長測定器による方法	ラバーダム防湿法の術式・利点を学ぶ。 歯髄を根尖狭窄部まで除去する目的、意義、適応、術式を学ぶ。 歯を保存するための感染根管治療法を学ぶ。 歯内治療が成功する要点を学ぶ。 根管長の正確な測定法を学ぶ。 臨床でよく用いられる電氣的根管長測定器による方法に重点をおいて学ぶ。	門 貴司
7	< 根管拡大形成と根管消毒 > 1)機械的根管拡大・形成	感染源となる歯髄や汚染象牙質を除去し、根管を広げ平滑にする意義と基本的操作を学ぶ。	松本 光生

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	2)根管内手用器具とその使用法 3)根管洗浄（化学的清掃）と根管消毒	リーマー、ファイルとその使用法について学ぶ。 使用頻度の高い薬剤による根管洗浄と消毒の基本を理解する。	
8	<無菌試験> <根管充填>	無菌試験の意義と根管内細菌培養試験を理解する。 抜髄と感染根管治療の最終治療法であり、患歯の予後を左右する因子である根管充填の意義と時期・術式・材料・方法を学ぶ。 ガッタパーチャポイント、水酸化カルシウム製剤を主に学ぶ。 側方加圧充填法と垂直加圧充填法を理解する。	部 佳奈子
9	<歯内療法の補助療法> 1)イオン導入法 2)外科的歯内療法  <歯内 - 歯周病変>	適応症、分類、術式の概要を学ぶ。 1)外科的排膿路の確保 2)根尖搔爬術 3)根尖切除術4)ルートリセクション 5)ヘミセクション/トライセクション 6)ルートセパレーション 7)歯の再植術 歯髄 歯周組織の通路（つながり関係）を学ぶ。	加藤 幸紀
10	<歯内治療時の偶発症>	歯内治療に伴う偶発症について学ぶ。 1)残髄炎 2)根尖性歯周炎 3)器具の破損 4)穿孔5)器具の誤飲・誤嚥 6)皮下気腫 7)歯根破折 8)軟組織の化学的損傷 遭遇時の対処法を学ぶ。	加藤 幸紀

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験 100%

【教科書】

最新歯科衛生士教本「歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法」全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版

【備考】

講義時の配布資料

【学修の準備】

講義内容は各回、関連しているので、毎回の講義後に十分な復習を行い（60分）、次回講義に該当する範囲を教科書で予習する（60分）。

【実務経験】

古市 保志（歯科医師）、門 貴司（歯科医師）、森 真理（歯科医師）、加藤 幸紀（歯科医師）、清水 伸太郎（歯科医師）

【実務経験を活かした教育内容】

歯内療法学は、歯髄・根尖歯周組織疾患の治療を通じて口腔機能の回復の意義、う蝕予防の重要性、さらには歯内療法が口腔のみならず全身の健康に寄与する科目であることを理解する。歯科衛生士を指導する立場の歯科医師にが、その実務経験を踏まえて歯科衛生士として必要な知識を教授することで、歯内療法学に関する優れた教育生化を期待できる教育内容である。